

平成 23 年 10 月 10 日

多摩大学多摩キャンパス  
国際交流委員長 金 美徳 教授  
国際交流副委員長 趙 佑鎮 准教授  
事務長 矢内 彰  
学務部教務課 武井 徹

## 多摩大アジアダイナミズム研修視察～韓国～報告書

掲題について、下記のとおりご報告申し上げます。

### 1. 研修視察・出張の目的

現代の産業界が最高学府である大学に望むものは、時代の課題をビジネスの現場で解決できる問題解決力をもった人材の育成と、アジア・ユーラシアダイナミズムというパラダイム転換の時代を創造する志や、「地政学的知」を身に付けた人材の育成である。これら大学に課せられた使命から多摩大アジアダイナミズム視察として、隣国である韓国の経済、ビジネス、歴史、並びに文化の研修視察を実施した。この視察の主目的は以下の通りである。

- ① 経営情報学部学生 18 名を引率し、韓国内において各種視察・異文化交流事業の実施。（韓国国会議事堂視察及び国会議員との対話、韓国三井物産の訪問並びにレクチャー、韓国史跡探訪、北朝鮮との国境線視察ほか）
- ② 淑明女子大学及び漢陽（ハンヤン）大学との情報交換及び交換留学 M O U (Memorandum of Understanding) 締結に関わる打合せ。
- ③ ソウル及び釜山において開催された日本留学フェア（韓国）への出展。

### 2. 出張先

大韓民国 ソウル及び釜山

### 3. 期間

平成 23 年 9 月 13 日（火）～平成 23 年 9 月 19 日（月）

### 4. 同行者

金美徳教授（経営情報学部国際交流委員長）  
趙佑鎮准教授（経営情報学部国際交流副委員長）  
矢内彰多摩キャンパス事務長  
阿部雅昭課長（9 月 16 日～9 月 19 ソウル・釜山留学フェア）  
武井徹教務課職員  
経営情報学部学生 18 名（9 月 13 日～9 月 15 日）  
（内訳：3 年生 14 名・2 年生 4 名、女子学生は 4 名）

### 5. 研修詳細日程

第1日目 9月13日(火)

7:15 羽田国際空港国際線ターミナル出発フロアに集合。

9:15 学生16名と教職員3名がKE2712便にてソウル金浦空港へ

14:00 滞在先ホテルに到着。趙佑鎮准教授及び学生2名と合流

14:30 ホテル近くのレストランで昼食後、徒歩にて景福宮(キョンボックン)朝鮮王宮へ移動

→趙准教授の案内で、王宮内を見学。9月13日当日は韓国のお盆であったため、王宮内は見学者で混雑しており、中には民族衣装チマチョゴリで正装した家族も多くみられた。

日本の植民地時代に第26代王・高宗の妃である閔妃(みんぴ)が暗殺された場所において、多くの韓国人がガイドの話に聞き入っていたのが印象的であった。閔妃が暗殺された乙未事変を知らない韓国人がいない一方で、閔妃の名前すら知らない日本人がほとんどである。韓国と日本においてはしばしば歴史の認識の違いが問題となるが、異文化交流とは、自国の文化と相手国の歴史や文化を知ることから始まる。

学生にはまずは日韓の歴史を事実として学んでほしいと痛感した。

18:00 韓国焼肉レストラン「北岳亭」にて夕食



朝鮮王宮近くの広場にて(後ろ世宗大王像)



景福宮(キョンボックン)朝鮮王宮にて

第2日目 9月14日(水)

9:00 ホテルのロビーに集合し、バスにて韓国国会議事堂へ移動。

10:00 韓国国会議事堂の視察

→国会職員のガイドで、憲政記念館(国会博物館)、会議場等を見学。その後議員会館会議室でパク・ウンス国会議員の講演及び質疑応答。パク議員は、韓国において初めてハンディキャップのある判事出身の国会議員であり、パク議員が実施する福祉政策から、過去においてハンディキャップのある方々に対して差別が横行していたことと、パク議員の政策がいかに近年の韓国国内の福祉の改善に寄与したか学ぶことができた。パク議員は日本の福祉にも関心があり、日本の鉄道会社が行っている障害者に対するサービス(特に車いす利用者に対するサービス)に感銘をうけ、韓国でも導入したいと発言していたのが印象的であった。

こうした前向きな「異文化交流」は大いに進めるべきである。

12:00 国会議員堂でパク議員との昼食後、バスにて統一展望台(オドゥサン)へ移動。

13:00 統一展望台の視察

→車中、バスガイドから韓国の歴史について長いレクチャーを受けた。

道中にも今もなお戦時を彷彿させる緊張感漂ういくつかの施設を見学、否応なしにあくまでも「休戦中」であることの現状を痛感させられる。

統一展望台ではバスガイドから、引き続き韓国の対北朝鮮外交及び現在の北朝鮮の状況についてレクチャーを受ける。

兵士が嚴重に北朝鮮との国境線を警備する様子や遅々として進まない北朝鮮との和平交渉

を考えると、イムジン川を挟んで数百メートル先に見える北朝鮮は、近くて遠い国であることを痛感した。

また、同一の民族でありながら別々の国家として存在し、行き来すら自由にできない状況に不条理さを感じせずにはいられなかった。

学生はこの国境をどのように捉えたのだろうか？

- 17:00 大統領府の見学。
- 18:00 ホテルに到着後、徒歩にて夕食のためプラザホテルに移動
- 18:20 ソウルプラザホテルにて夕食
- 20:00 ソウルの中心部である明洞（ミョンドン）を視察、その後解散



国会議事堂正面にて



統一展望台（オドゥサン）にて イムジン川と北朝鮮

### 第3日目 9月15日（木）

- 9:15 ホテルのロビーに集合し、徒歩にて韓国三井物産へ移動
- 9:30 韓国三井物産の訪問及び韓国三井物産小林正明経営企画本部長及び鈴木恭孝プロジェクト本部長による講演（テーマ：アジア・グローバル人材とは）
  - 混迷を極める世界経済において、三井物産が考えるグローバル人材についてレクチャーを受けた。韓国三井物産においても現地採用を積極的に実施するだけでなく、現地採用者の教育及び人材育成に力を入れ、将来本部機構の幹部に登用することも視野に入れているとのことである。
  - しかしながら圧倒的に男性職員の割合が高く、就職においては男性が優位である現状は日本も韓国も同様のようである。
  - また、ここでも日本の学生がいわゆる草食化していることでアジアの学生に後れをとりつつある現状に懸念が示され、日本の学生の国際競争力低下の問題があることを改めて考えさせられた。
- 12:00 昼食後ロビーに集合し、学生はバスにてソウル金浦空港へ移動
- 16:30 学生は KE2709 便にて羽田国際空港へ。現地解散
- 16:00 教職員4名は、大手学習誌会社「才能教育」へタクシーにて移動
- 16:30 大手学習誌会社「才能教育」の訪問と才能教育梁炳武（ヤンビョンム）CEOによる講演（テーマ：韓国大学改革の象徴・淑明女子大学の改革物語～韓国大学事情～）
  - 趙准教授の紹介・通訳で、梁炳武 CEO から淑明女子大学（翌日訪問予定）の改革の成功例及び現在の大学事情について講演を頂いた。ヤンCEOは、シンクタンクの研究員、大学教授を経てビジネス界に身をおく、多彩な経歴のベストセラー作家であり、淑明女子大学の改革物語を取材して本に出版した経緯もあって、大学改革にも詳しい。
  - 淑明女子大学の改革には、当時の総長（リ・ギョンスク氏）のカリスマ的な存在と「サーバント・リーダーシップ」が大きく寄与し、この総長に賛同し「世界最高のリーダーシッ

プ大学」というビジョンの下、大学を復活させようと教職員が一致団結して協力したことが改革の成功に繋がった、とのことである。リ総長の改革によって淑明女子大学は、質量ともに劇的に生まれ変わり、多方面においてマスコミや官庁からの評価で優秀賞を受賞した。以下は、ヤンCEOが語った、淑明女子大学の改革物語の要約である。

「リ総長が初めて就任した時、総長の机の上には7億8千万ウォンの税金告知書が置かれていました。学校が赤字だらけだったのです。当時学校には冷笑と敗北主義的雰囲気蔓延していました。教職員労組の賃金闘争と学生たちの登録金闘争、不満一杯の教授が淑明女子大学の姿でした。開校100周年である2006年に合わせて学校規模を2倍以上に育てるという目標で1,000億ウォン募金運動を行うとリ総長が言った時、「これまで淑明女子大学が集めた募金といえば図書館建立基金2億ウォンが最高ですよ」、と皆あざ笑いました。しかし卒業生たちを対象にした「登録金もう一度出そう運動」を展開するにつれ、10年が経つと、学校敷地は2倍に増え、建物も17棟が新しくできました。リ総長の献身的姿と戦略が教職員と卒業生の心をとらえたのです。その結果、純粋募金、収益プログラム開発、学校運営費節減などを合わせると1,000億ウォンを超えました。何より教職員と学生が活気にあふれて一丸となって団結しているというのが最大の変化でありました。その間の過程を見ると、98年韓国内大学では最初に無線LANを構築し、2002年には携帯電話を通じて学事行政を処理するモバイルキャンパスを実現させました。また、既存のリーダーシップセンターを「淑明リーダーシップ開発院」に拡大改編させ、21世紀型リーダーシップ教育を差別化のコアにし、また、世界最高の料理学校であるフランスの「ル・コルトンブルー」と提携して韓国分校を運営するなどしました。これらの努力による評価として、韓国生産性本部が調査した国家顧客満足度大学部門では3年連続1位大学に評価選定されるなど、数多い「最初」と「1位」を記録して、私立大学の間ではベンチマーキングの対象になりました。」ということである。

多方面から寄付金として資金的な支援を得ることができたことや、教職員の一致団結は、改革の成功の理由であり、本学の今後の寄付事業と教職員の志の参考にしたい。



韓国三井物産（株）にて



才能教育にて 右から2人目が梁炳武 CEO

#### 第4日目 9月16日（金）

##### 9:00 淑明女子大学の視察

→学生ガイドに案内され、大学の歴史博物館、図書館等を視察した後、チョイソウエン General Manager と MOU に関する打ち合わせを行なった。キャンパスは、清潔感あふれる近代的の施設に最新の設備が各所に導入され、教育を受ける場としては理想的な場所であった。また、これらの多くの施設設備は、企業や個人からの寄付によるものであることは特筆しておきたい。国際交流にも近年力を入れており、留学生に関しては男子学生も受け入れているとのこ



とである。

なお、特筆すべきは同行してくれたガイドは1年生学生であったのだが、大学の広報支援要員として立振舞いから言葉使いまで、相当な訓練がなされていた。

最近本学のオープンキャンパスも学生を前面にだす場面が増えているが、対外的に恥かしくない立派な学生を育成することの重要性を再認識させられた。

12:00 淑明女子大学近くの学生街で昼食後、漢陽大学へ移動

14:00 漢陽大学の視察

→漢陽大学内にある東海大学ソウル事務所を表敬訪問し、世界展開力強化事業申請における連携に対し多摩大学からの謝意を直接お伝えした。

その後漢陽大学国際交流センターを訪問し、MOUに関する具体的な打合せを行なった。

漢陽大学側からはMOUの具体的な案が提示され、日本帰国後ただちに国際交流員会で精査されることとなった。

その後、図書館等の学内施設を視察した。淑明女子大学と同様に広いキャンパスに最新の設備が各所に導入されていた。これらの多くの施設設備は、企業や個人からの寄付によるものであるとのことである。海外留学生の受け入れも積極的である。留学生専用のインターナショナルハウスがキャンパス内にあり、そこで留学生が生活しているとのことである。

漢陽大学での特筆すべき事項は、学内に警察車両とほぼ同じ仕様のパトロールカーが配備され、常時巡回しており、学生の安全面には相当な配慮がなされ、コストがかけられている点には驚かされた。

19:00 ソウル市内の韓国焼き肉レストランにて夕食



淑明女子大学にて 電光掲示版の学生向け情報



漢陽大学博物館にて 米国の大学の影響が窺える

第5日目 9月17日(土)

8:00 チェックアウト後、ホテルのロビーに集合。その後留学フェア会場の Seoul Trade Exhibition Center に移動

9:30~16:00 日本留学フェア(韓国) in ソウルに参加

→日本学生支援機構が主催する日本留学フェア(韓国)に参加。

私立国公立を含め約60校の日本の大学がブースを出展し、韓国の高校生及び大学生を対象として日本への留学フェアを実施した。

一橋、早稲田をはじめとする韓国で一般的に知られている大学の人気が高く苦戦することを予想したが、持参した資料はすべて配布した他、ブースへの来訪者も多数あり、ほぼ予定していた成果をあげた。

フェアでの印象として

- ・ 女子学生の留学に対する意識が高い
- ・ 東京を留学先と考えている学生が多く、本学の立地は十分勝負になることを実感

反省点として来場者の興味・関心を誘導するために

- ・ 大学名のほか、立地、学部名、そして何が学べるかを明確に知らせる必要があること
- ・ まずは目を引く広報物ツールが必要であること
- ・ 「土産」と呼ばれる大学グッズを充実させること
- ・ 充実したインパクトのあるパンフレット

などがあげられる。

19:00 フェア終了後、KE1045 便にて釜山へ移動

21:00 ホテル到着後、ホテル近くの韓国焼き肉レストランにて夕食



留学フェア in ソウル 女子学生の来場者が多い



本学卒業生の朴ヒョンギョンさんが通訳として参加

第 6 日目 9 月 18 日 (日)

10:30 ホテルのロビーに集合後、留学フェア会場である Busan Exhibition & Convention Center (BEXCO) に移動

11:00~16:00 日本留学フェア (韓国) in 釜山

→9月17日に引き続き、日本学生支援機構が主催する日本留学フェア (韓国) に参加。

持参した資料はすべて配布することができ、ブースへの来訪者も多数おりまずまずの結果となった。

フェアの印象と反省点はソウル会場に準じるが、釜山の特徴としては、その距離感からか、九州への留学を希望する学生が多かったことがあげられる。

また東日本大震災の影響により、被災地から比較的距離の遠い大阪エリアの人気も高まっているように感じた。

18:00 釜山四面にて夕食 視察日程の反省会



留学フェア in 釜山 学生だけでなく保護者の参加も多かった



留学フェア会場入り口

第 7 日目 9 月 19 日 (月)

9:00 チェックアウト後、ホテルロビーに集合。釜山金海国際空港へ移動  
10:50 KE1045 便にて成田国際空港へ  
13:00 成田国際空港到着

## 6. 総括

今回の韓国研修の成果は、主に3つある。

まず1点目は、韓国の政治経済及び教育現場を直に体験したことである。媒体を通じて知る韓国の現状と、実際に体験した韓国のそれは大きく異なるものであった。政治経済に関して北朝鮮問題を例にすると、ソウル市内から十数キロ離れた場所に北朝鮮との国境が存在する。このためソウル市内においても場所によっては軍用車両が配備されるだけでなく有刺鉄線も設置され、市内を移動するだけで北朝鮮との緊張状態を体感した。教育現場に関しては今回ソウル市内の2校の大学を視察した。淑明女子大学では最新の設備を導入している他、各業界の企業とタイアップし時代のニーズに合致した教育を実施していた。ユビキタス・キャンパス構築に先立っている大学としても韓国では知られている。また、これらの大学のグローバル人材育成にも強い刺激を受けた。2校のキャンパスにおいて多くの国々の留学生が学ぶ姿から、国際色豊かな総合大学であることが窺えた。事実、漢陽大学では全世界42カ国339校の大学と淑明女子大学では22カ国140校と姉妹提携を行っている。これらは単に大学の資金力のみによるものではない。大学の売りとなるものを最大限に活かし大学運営を行っている点については、多摩大学も大いに学びたい。

2点目は教育現場及び政治経済をけん引するビジネスパーソンから、直接レクチャーを受けたことである。パク・ウンス国会議員、韓国三井物産本部長、並びに才能教育梁炳武CEOからレクチャーを受け学生が大変な刺激を受けたと同時に、韓国の歴史文化、経済、ビジネス、並びに教育に対する取り組みと日本のそれらとを比較することで、私（武井）自身の大学職員としての視野も広げることができた。また、世界で通用するグローバル人材の育成という多摩大学が掲げる教育目標の達成のヒントを見出すことができた。

3点目は日本留学フェア（韓国）の参加である。ソウル及び釜山において留学フェアに参加し、少人数教育やきめの細かい指導など多摩大学の強みを、十分に現地学生及び保護者に対してPRできた。それと同時に、韓国人学生の日本への留学に対する意識及びニーズを把握することができた。また、釜山のフェアでは韓国の複数の大学より本学に対し、MOUの打診があったことは成果である。

## 7. 集合写真



韓国国会議事堂にて



韓国国会議事堂にて 前列真ん中が朴・ウンス議員





韓国国会議事堂にて



韓国大統領府にて



漢陽大学 国際交流センターにて



淑明女子大学にて

以上